志 功 館 の 由 来

棟方志功席銘・茶室「妙知庵」

この茶室は、河鹿園にあり、平常は客間として使用されており、新館と呼ばれている。世界的な板画家（故）棟方志功さんは、昭和23年頃（1948年頃）からたびたび奥津温泉を訪れて、その度に河鹿園、あるいは奥津荘に投宿している。

河鹿園社長（故）光永大佑氏は、昭和27年頃（1952年頃）新館建築を思いつき、計画をたてかけた折、久し振りに来訪した志功さんに「新館に茶室を併設したい」と云うことを打ち明けた。志功さんも大変興味をもち１日２日と滞在をのばし、茶室設計の相談役となり、２人は議論しながら設計したのだそうです。

美術・書道・茶華道など芸術に理解のあった（故）光永大佑氏は、彼を「天衣無縫の現代に生きる縄文人」「日本のゴッホ」と暖かく迎え、志功さんも自ら倭絵（やまとえ）と称する文筆の日本絵・色紙・自作の茶碗など多くの作品を残している。

このようなことから２人は意気投合し、酒を酌み交わしながらの親交は志功さんが死するまで続いていたと云うことです。

棟方志功　席銘茶室　《妙知庵》

この茶室は、新館の落慶茶会が、昭和28年１月に行われたとき、その茶会に出席した志功さんが、一番広い間（８畳）を「玄又亭（げんゆうてい）」、三畳台目の茶室を「妙知庵（みょうちあん）」、待合の間（８畳）を「可楽舎（からくしゃ）」、とそれぞれ禅語の中から命名されたのです。

「玄又亭」の床柱は、樹齢千年といわれるつつじの古木を使用しており、各室の天井には、こぶしの古木など数種類の材料を使った設計がなされ、なかなか凝ったもので、これを「志功館」と名付けています。

■棟方志功席名茶室

妙　知　庵　に　つ　い　て

岡山県津山工業高校教諭　　長　尾　　斉

新住宅誌昭和51年11月号でも紹介しましたが、昭和45年の文化勲章受章者で世界的にも高く評価されているムナカタ板画で有名な故棟方志功さんが、昭和28年正月奥津温泉河鹿園に作られた茶室の落慶に際し命名された名席がある。

《妙知庵》

戦後まもなくのことであった。棟方さんは愛弟子で上斎原村に住んでおられた柳井道弘・愛子夫妻をよく訪ねて来られ、その都度河鹿園に身を寄せられた。当時はまだそれほど知名度もなく、また衣食住にもこと欠く世相でもあったから棟方さんに触手の人も少なかった。しかし審美眼にたけた光永さんは、彼を「天衣無縫の現代に生きる縄文人」で日本のゴッホと暖かく迎えられ、よく面倒をみられた。ご存知の方も多いと思いますが、光永さんは昭和２年法政大学でフランス文学のプロフェッサーになられるところであったが、健康を害され奥津に帰られ、美作18万石の大守森忠政候が湯泉に遊んだ御殿場跡に、単なる温泉旅館でなく、総合芸術として洗練された小美術館を兼ねた旅館にと河鹿園をつくられた。造園・インテリアは総て光永さんの手になる作品であるが、この中に昭和27年の増設にあたり、棟方さんとの出会いによって茶人同士が芸術論を交わす中で煮詰められ、造られたいわば合作である。このように棟方さんの指導でつくられた茶室は他にないと思われる。

《妙知庵にじり口》

この茶室の特長を一言で言えば、棟方板画の心が生かされていると言えよう。特に天井空間の構成が優れている。空間機能上意匠の変化は、天井と云うことに帰結するのであろう。また奥津の深山からつつじの古木が使われている床柱を始めとして、珍木が集められ、素材の選定からすでに茶道精神が生かされている。

６帖の寄付から露地庭を通って可楽舎という待合８帖があり、その奥に水屋６帖をはさんで、西側に広間の玄又亭８帖と、東側に小間の妙知庵３帖がある。

棟方さんの席銘記に、次のような書がある。

> 可楽舎。カラク河鹿ノ韻アリ、タノシミマタヨケレ、ヨケレベシ。玄又亭　ゲンユウ、ゲンノマタゲン、源（モト）ニシテノ源（モト）ナリ。妙知庵　ミュウチ、ミュウヲシル、ミウヲシルコトガタクマタヤサシ。

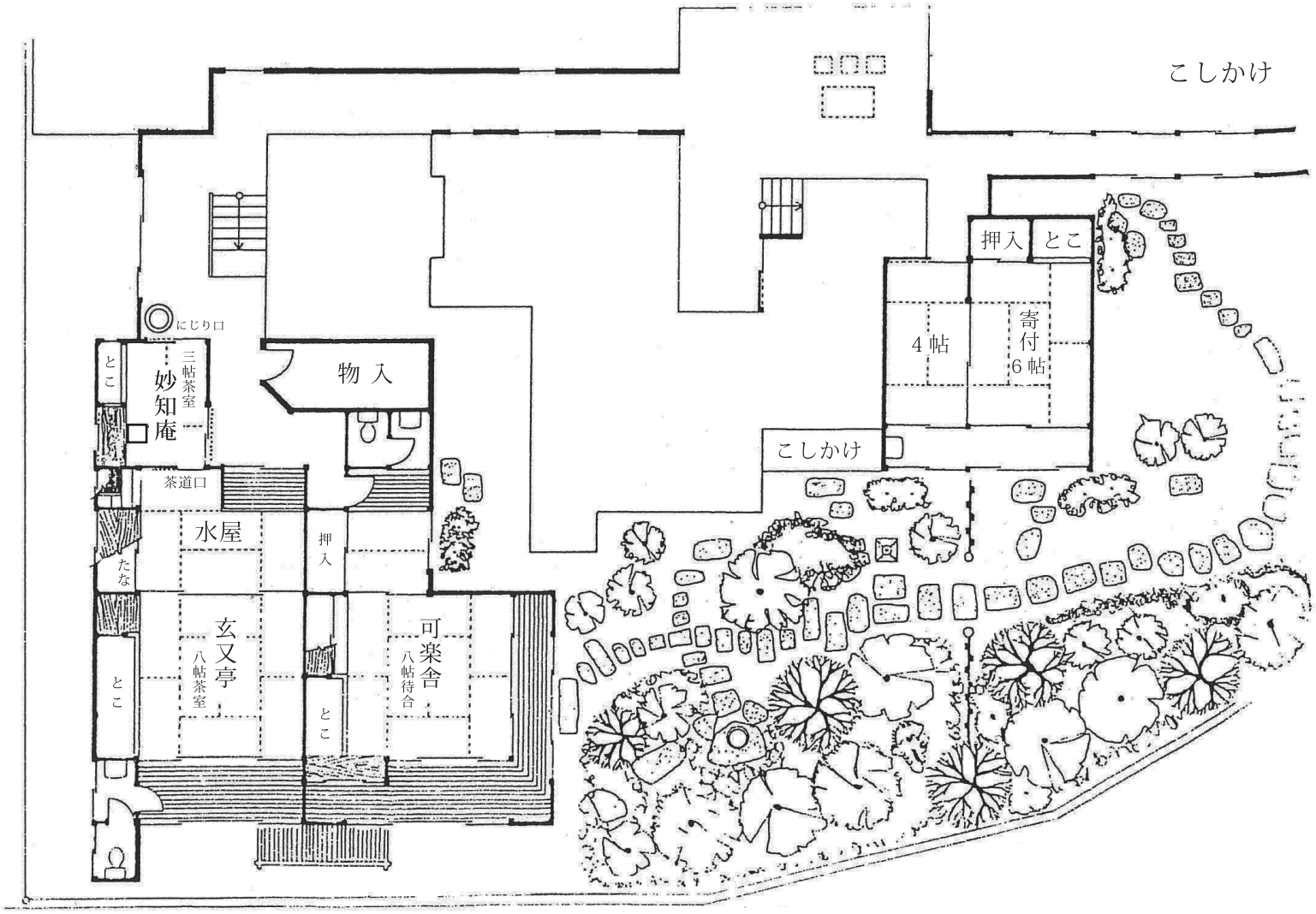
と含蓄のある言葉が寄書してある。そして同園の一棟を棟方舘にしたらと、滞在中に描いた自ら倭絵（やまとえ）と称する肉筆の日本絵、色紙、軸物、版画、更に自作の茶碗など、棟方作品で一番精力的といえる数多くの作品が残されており、これらの作品が建築空間にうまく生かされて展示されるところに同園の良さがある。このことが最近特に話題になって来ている。

《　露　地　庭　》

茶室妙知席　平天井すぎ皮あじろあみ貼、竿縁しらたけ廻り縁ひのき細丸。欠込み天井木舞角ものとなよだけ２本ならべを交互に入れ、垂木１本おきにはんちくかいづる巻き、その間はこぶし細丸入り。垂木かけ北山みがき丸太。壁じゅらく仕上。床柱こぶし丸太。床框けやき、柱すぎ面皮おとし掛ごまだけ、地板まつ、炉わきの柱なつつばき広弓・玄又天井すぎもく板竿縁天井、竿縁こぶし

広間玄又亭　天井すぎもく板竿縁天井、竿縁こぶし丸太。床柱つつじ古木。床框けやき生地のまま床脇天井すぎ皮あじろあみ、竿縁しらたけ。壁じゅらく仕上。

平　面　図


こしかけ
押入
とこ
4帖
寄付
6帖
こしかけ
にじり口
三帖茶室
妙知庵
とこ
物入
茶道口
水屋
たな
押入
玄又亭
八帖茶室
とこ
とこ
可楽舎
八帖待合

← 吉井川上流